



研究開発・臨床評価



【リハビリ支援スーツ】

リハビリ支援スーツの実用モデルの開発を行いました。支援スーツを利用した時の効果的な訓練方法や、その評価方法を提案。この支援スーツは、健側の upper limb にセンサーを装着し、その上肢の動きを検知して患側に装着した人工筋肉を動かす仕組みになっています。

共同開発企業:
アクティブリンク株式会社



【レバー式車いす駆動システム】

子ども用のレバー駆動型車いす(レバーを前後に動かすことで、車いすの前進、後退、回転ができる車いす駆動装置)を開発し、評価を行いました。

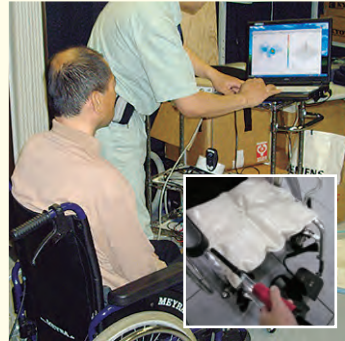
共同開発企業:
アバンテ株式会社



【車いす用エアセルクッション】

体圧分散に最適なエアセルの調整と膨縮をコンピュータで自動化することで臀部特定箇所の負担軽減を実現しました。

共同開発企業:
横浜ゴム株式会社



【車いす用エアアクション】

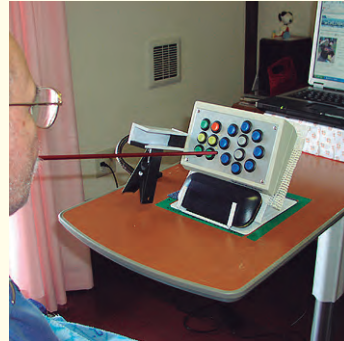
他のエアアクションと比較すると安価で手軽に使用することができるのが大きな特徴です。空気を抜き折り畳んで持ち運ぶことができます。

臨床評価:
榎プロップ



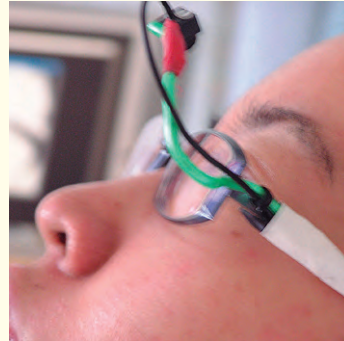
【コミュニケーション・既製品の改良】

イラストを指で押せば、そのメッセージが音声で流れる機器を改良。シートをめくると同時に階層を自動認識し、メッセージを出せるように改善したため、シートが複数ある場合に切り替えボタンを押す手間が省け、便利。



【コミュニケーション・パソコン操作】

頸髄損傷により首から下に麻痺があるため、口に棒(マウススティック)をくわえ、ボタン式マウスによりパソコンを操作しています。マウススティックは歯形に合わせ、スティックホルダーも同時に製作することがポイント。



【コミュニケーション・スイッチ】

超小型カメラを用いた装着型眼球運動簡易検出装置。眼鏡に固定した超小型カメラで眼球を撮影し、眼球の動きをコンピュータで読み取る。テレビのチャンネル操作やナースコールとして使用中。



【重度障害者向け電動車いす操作】

重度障害者向けに外部入力(4個のボタンスイッチとミニジョイスティック)により電動車いすを操作する評価を行いました。

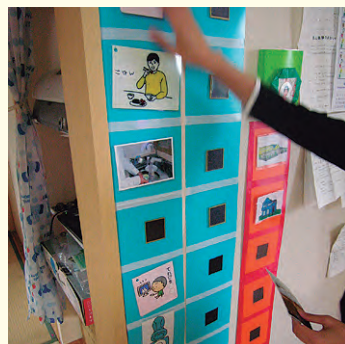
共同開発企業:
ヤマハ発動機株式会社



【肢体不自由児の住宅リフレット】

肢体不自由児の住環境に関するアンケート調査、訪問調査を実施後、研究成果として啓発リフレットを製作しました。

共同研究:聖学院大学、国立保健医療科学院、STUDIO3



【自閉症の住環境研究】

自閉症の人々の生活実態を把握するため、全国290世帯に対してアンケート調査を実施しました。行動特性と親のストレスに関する分析を実施。

研究助成:
(財)明治安田こころの健康財団



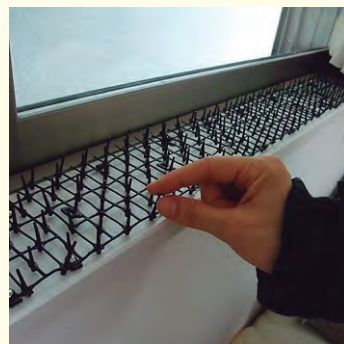
【住まい・高齢者】

外出時は約2mの段差があるため、レンタル用の段差解消機を2台組み合わせで対応。一般的にレンタル用の段差解消機は約2mの高低差を解消できるものではなく、購入すると200万円以上かかる。



【住まい・身体障害】

両下肢麻痺のある方がマンションでの単身生活を実現するため、浴室にリフトと手すりを設置。車いす上で吊り具を装着し、リフトを操作します。リフトに吊られたまま方向転換する時は手すりを使っています。



【住まい・知的障害】

窓を勝手に開けて外に飛び出す知的障害のあるお子さんに対する安全管理の一例。トゲ付きのメッシュを窓枠に敷き詰めることで無断外出を予防しています。面格子などを設置するよりも安価なのがポイント。



【福祉用具臨床評価】

テクノエイド協会からの委託事業(福祉用具臨床の評価モデル事業)で介護保険対応の福祉用具4機種(手動車いす・電動車いす・電動三・四輪車・特殊寝台)の評価を実施しました。

(財)テクノエイド協会

モデル事業



【介助犬用車いすフック】

介助犬を車いすから遠ざけないように、着脱が簡単にできるフックを開発しました。

共同開発:
(NPO)日本介助犬アカデミー



【盲導犬ハーネスの改善】

従来のハーネスの問題点を整理し、長期間使っても肩や手首に痛みが生じにくいハーネスを開発しました。

共同開発:
(財)日本盲導犬協会
(財)栃木盲導犬センター



【ラポールとの共同企画】

研究開発課では、「横浜ラポール(障害者スポーツ文化施設)」と共同でさまざまな催しを行っています。研究開発に協力していただくモニター(ヨツテックパートナー)の募集も行っています。



【研修・啓発・ヨツテック】

当センターの研修事業は、地域の保健・医療・福祉等関連領域の人材育成やサービスの質的向上を図るうえで有力な事業となっています。リハビリテーションの専門職が長年蓄積してきた技術や知識をひとりでも多くの方に伝え、一緒に学ぶことで地域のネットワークづくりにも役立っています。

また、毎年夏には、最新の各種福祉機器の体験や、ワークショップなどのプログラムを用意し、人とテクノロジーの調和を考え、福祉を支える人のアクティビティとテクノロジーの素晴らしさを分かりやすく伝えていくイベント「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド」に協力しています。

研修・啓発

